

令和5年度学校評価外部報告書

兵庫県立加古川南高校 学校評価委員会

総合評価 B+
(データ平均値 79.8)

令和5年度の最終評価

テーマ	領域	重点目標	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	来年度の改善の方策 (令和6年3月記入)	課題と来年度に向けての提言
変化する時代にあつて、夢や志の実現のために	産社・総探の充実		1	自己理解・自己管理ができるとともに、コミュニケーション能力が向上した。	総推各年次	B+ (79.4)	B+ (79.2)	A- (80.0)	3.3	3.1	3.2	<p>【1年】「インターンシップ」はキャリア教育として効果的であるので、希望と受け入れ先ができるだけミスマッチのないよう細やかな事前指導を行う。</p> <p>【2年】探究活動で行うべきことをしっかりと認識させ、その成果を十分に発表につなげられるよう指導する。また、より様々な指導者からアドバイスをもらえるような発表練習の機会を増やす。</p> <p>【3年】「話す力」に比べ「書く力」は身につけていない。書く力を身につけさせるために、産社から課研までを見通した指導計画が必要。また、研究を進めるにあたり、仮説の設定ができていない生徒や論拠を文献(論文)に求められていない生徒が多かった。これは教員の知識不足・指導不足であるので、研修が必要。</p> <p>【総推】産社から総探への接続を強化し、自己理解からの課題発見を研究テーマにつなげられるようにする。また、探究アドバイザー等の外部人材を活用し、生徒への指導だけでなく、教員研修の機会も増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校としていろいろと取り組んでいるので、現在の活動を地道に続けていくしかない。 ・インターンシップによる職業体験は、生徒の進路意識の向上や、礼儀・マナーの習得に大きく役立っているため、継続して行う。 ・科目選択では引き続き、一人一人の進路に合った選択をサポートすると共に出来る限り希望に添えるよう担当の先生をはじめとして協議を重ね決定する。 ・公務員希望者への対策が手厚くて良いと思います。大学進学では、商業科推薦がもう少し活用出来ればと思います。
			2	課題に対して情報を適切に処理し、課題解決していく力が向上した。	総推各年次			B+ (75.8)	2.9	3.1	3.1		
			3	働くことの意義や役割を理解し、進路意識や職業観が向上した。	総推各年次			A- (81.7)	3.2	3.3	3.3		
	進路の達成		4	希望する進路に向かって地道に学習する生徒を増やした。	進路各年次		B+ (77.5)	3.1	3.2	3.0	<p>【1年】細やかな個別面談等により、進路希望が変化する生徒にも早めに対応し適切な指導を行い、2年次以降の科目選択、進路実現につなげる。</p> <p>【2年】引き続き、進路指導部と年次が連携を取りながら進めていく必要がある。また進路LHR等での全体指導を丁寧に行い意識付けを強化することによって、効率の良い個別指導につなげていく。</p> <p>【3年】生徒の実態に合わせて、一般的な進路指導(学力をつける教科指導)が後回しになってしまう。全体の1割程度だが難関大学に向かう生徒もいるので学力保証を手厚く行いたい。しかし今のままでは教員に余力はないので、年次以外の協力が必要。</p> <p>【総推】産社・総探を通じて、自己の在り方を考えることから進路実現への意識を向上させる。また、課題研究への取り組みや成果を進路実現につなげられるよう充実を図る。</p> <p>【進路】年次集会時に年次・総推と連携して進路に関する情報提供と意欲の向上を図る。また3年間を見通した進路LHR計画の検討を行う。</p>		
			5	進路実現に向けて個に応じたきめ細やかな指導を実施した。	進路各年次		A- (80.8)	3.4	3.3	3.0			
			6	キャリア教育と進路指導が連携し、効果が上がった。	総推進路各年次		B+ (74.2)	3.2	2.8	2.9			
	ガイダンス機能の充実		7	納得のいく科目選択のために丁寧なガイダンスが実施された。	総推1・2年次		A- (83.3)	3.5	3.3	3.2	<p>【1年】科目選択において、生徒の進路の必要に応じて適切に履修できるよう面談し、できるだけ抽選のないようにする。</p> <p>【2年】生徒や保護者の意向を、面談などを通してしっかりとした共通理解をする。またその情報を進路指導部など関係する部署と確実に共有できる環境を作る。</p> <p>【3年】進路指導部と年次の連携は図れた。教員と生徒との意思疎通、教員と保護者の意思疎通も図れた。問題は生徒と保護者で意思疎通がはかれない家庭に対する指導。親子関係に切り込んでいくのは難しい。</p> <p>【総推】産社を通じて自己理解から進路実現への意識づけを図り、適切な科目選択へつなげていく。</p> <p>【進路】年次との連携を緊密にはかることで生徒の実態把握を行い時宜にかなったガイダンスの実施と情報提供に努める。</p>		
			8	進路実現に向けて効果的な情報提供がなされた。	進路各年次		A- (84.2)	3.6	3.3	3.2			
			9	生徒の情報が教員間で共有され生徒の意欲向上につながった。	各年次各教科		B+ (76.7)	3.3	2.8	3.1			

テーマ	領域	重点目標	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	来年度の改善の方策 (令和6年3月記入)	課題と来年度に向けての提言					
変化する時代にあつて、夢や志の実現のために	領域2 学力の向上	授業改善	10	わかりやすい授業、意欲を高める授業を実施した。	全職員	B+ (76.0)	B+ (75.0)	3.3	2.9	2.8	【教務】BYOD事業を促進し、iPadを利用した授業を展開するため公開授業を昨年度より多く実施する。また、研修を行い各自が独自に行っているICTの利用方法を共有することで、全職員の資質向上を図る。 新カリキュラムに対応した授業を展開し、生徒の学びに対応した授業を実施するために、教科横断的にメソッドを共有し、教員研修を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムなどには工夫がされているが、結果をどう向上させるかが課題である。 ・タブレット・スマートフォン等を活用したICT教育が充実している。 ・家庭学習をいかにして単純作業にさせないかが課題だと思う。スタサプの活用で改善していくのかどうかの検証も必要。 ・科目選択に関してきめ細かい説明を行なっている。 ・課題提出が目的でなく、個々の進路に応じた家庭学習のフォローが必要だと思います。 ・学習の習慣付けなど、各教科や各学年だけでなく、学校全体としての取り組みが必要と思う。 						
			11	主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習過程の改善に取り組んだ。	全職員			B+ (74.2)	B+ (73.3)	3.1			2.8	2.9				
			12	授業公開や生徒による授業評価を取り入れるなど授業改善に取り組んだ。	教務各教科			B+ (74.2)	3.1	2.9			2.9					
		カリキュラムの充実	13	進路達成に応じた、多様な科目を設定した。	教務各教科		A- (85.3)	A- (88.3)	3.5	3.6			3.5	【教務】新教育課程が実施され3年目に入るので、前年度に引き続き、設置科目の精査や置換を考え、生徒の進路実現に沿うようなカリキュラムを編成する。また、総合学科ならではの学校設定科目を継続して設置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上のために個に応じた指導はできていると思うが、基礎学力の定着が課題である。 ・小テストや課題を定期的に行い、学習習慣の定着を図る取り組みをすることができたと思う。 ・生徒の学びを向上させるために、タブレットを活用した授業などを積極的に行ってもらいたい。 ・朝活を活用して少しでも学力が定着するよう取り組んでいる。 ・予習や週末課題など与えられた課題を、ただ単に「こなす」「提出する」だけになっている生徒が多く、自発的な学習に発展させなければならない。 			
			14	学力向上を目指したカリキュラムを設定している。	教務各教科				A- (80.0)	2.9			3.4			3.3		
			15	新学習指導要領に対応した教育課程編成の準備をした。	教務各教科				A- (87.5)	3.5								
		学習習慣の定着	16	家庭学習習慣を定着させた。	各年次教務		B- (68.6)	B+ (78.3)	3.4	2.9			3.1			【1年】1年を通して、火曜数学、水曜漢字、木曜英語の小テスト、月曜朝読、金曜NIEを行い基礎学習の定着には効果が認められたが、家庭学習への意識を高めるためには、タブレット等を活用させることが必要。 【2年】他の内容でも同じことが言えるが、特に学習活動については目的意識をはっきりと持っている生徒とそうでない生徒の差が大きくなっている。自分の進路実現に向けた活動を積極的に行うことができる雰囲気づくりを行う。 【3年】一般的な学力が必要な生徒でさえ、学習に対する取り組みが遅い。1年次から該当生徒に対する個別アプローチが必要。生徒の自主性に任せる指導では学力は向上しない。 【総務】生徒が求めている本を、できるだけ多く揃えるように努める。図書館だよりの発行、秋の読書週間にイベントを開催するなど、読書への興味・関心を高める。 【教務】生徒の特色を生かし、カリキュラムを通して、生徒が学びたいことが学べる環境づくりを行い、学習に対する興味・関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は全校生がiPadを持つようになるため、ICTをうまく活用するために、各先生がお持ちの活用方法を共有する機会を作らなければならない。 	
			17	予習・復習をさせる手立てを組織的・計画的に実施した。	各年次教務				B- (63.3)	3.0			1.9					2.7
			18	読解力の向上を目指して、読書活動の推進を図った。	総務各年次				B- (64.2)	2.8			2.3					2.6

テーマ	領域	重点目標	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	来年度の改善の方策 (令和6年3月記入)	課題と来年度に向けての提言	
変化する時代にあつて、夢や志の実現のために	領域3 人間力の育成	生活指導の充実	19	交通マナーの向上に努め、自転車事故の低減を図った。	生徒指導各年次	A- (84.3)	A- (81.5)	B+ (74.2)	3.0	3.0	2.9	<p>【1年】SNSの使い方による問題を防ぐため、講演会や人権LHRの中で注意喚起をより丁寧に行う。</p> <p>【2年】自分の希望する進路を見据えた、また社会通念に照らした正しい規範意識を持てるよう、様々な場面で生徒とのコミュニケーションをとる機会を増やす。</p> <p>【3年】マナー指導は「ぶれない」ことが大切である。大人として教員として子どもたちに最低限教えなければいけないことはある。信念をもってひるまず生徒と向き合うことが重要であると考えます。</p> <p>【生徒指導】交通事故を未然に防ぐために全校集会やスケアードストレイト等での啓発活動を行う。いじめに関しては小さな事案も見逃さずに全職員で取り組む。ネットでのいじめ案件が無いようにするためにSNS講演会を行い未然に防ぐ。</p> <p>【保健】生徒の小さな変化に気づき、悩みのある生徒に寄り添えるように心がける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が落ちついたので、今後はこれまで出来なかった活動が広がる。 ・ホームページによる情報発信が充実している。 ・各先生方が生徒に親身に関わっている。 ・学校の魅力・特色をさらに効果的に発信するために、行事報告書の提出など積極的に情報提供をしてもらいたい。 ・生徒の個に応じた指導が充実していると思う。 ・日々の生活で小さなことに誠実に取り組ませることが大事だと思う。 ・年次内での情報共有は十分にできている。 ・部活動の活性化を図ることが、生徒募集の観点からも必要だと思います。推薦入試における扱いも考慮していく必要があると思います。 ・面談を定期的に行い、いじめの未然防止を図っている。 	
			20	ネット依存・トラブル防止のため、情報モラルの高揚に努めた。	生徒指導各年次			A- (81.7)	3.4	3.4	3.0			
			21	端正な服装・頭髮ができるなど規律正しい学校生活を送らせた。	生徒指導各年次			A- (86.7)	3.3	3.6	3.5			
			22	定期的にアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見・解消に努めた。	生徒指導保健各年次			A- (85.8)	3.7	3.4	3.2			
			23	生徒の悩みを聞く体制がとられており、共通理解に基づいた対応ができた。	生徒指導保健各年次			B+ (79.2)	3.4	3.1	3.0			
		課外活動の充実	24	部活動を活性化し、自主性や豊かな人間性を育んだ。	全職員		A- (82.5)	A- (81.7)	3.3	3.2	3.3			<p>【総務】今年度は1年間を通じて防災教育に力を入れた。その際、生徒会やSPR隊の生徒などが司会やけが人の役割を演じるなど、さまざまなところで学校のために活動を行ってくれた。他の生徒も、防災学習のクロスロードゲームで、他者の意見を尊重しながら自分の意見を主張するなど、主体的な活動を多々行った。クリーン作戦やワックスがけなど、さまざまな活動を来年度も行い、生徒の主体性を育んでいきたい。</p> <p>【生徒指導】生徒の自発的な行動が生まれるように働きかける。</p> <p>【総推】総合学科発表会等の運営を生徒主体にできるよう、年度当初から計画的に進める。</p>
			25	生徒会活動や学校行事を通して主体性が育まれた。	総務 総推 生徒指導									
		地域との連携充実	26	ボランティア活動やインターンシップなど、地域と結びついた活動が活性化した。	生徒指導 総推		A- (88.8)	A- (89.2)	3.8	3.4	3.5			<p>【生徒指導】ボランティアの加古南と呼ばれ続けるように活動を活性化する。</p> <p>【総推】インターンシップを継続して実施する。総探において、自治体や地元企業との連携を強化し、探究活動の充実だけでなく地域貢献を進める。</p> <p>【企画広報】ホームページの毎日更新は引き続き行う。中学生に向けての広報をオープンハイスクールの課題点の解消などで、さらに強化する。</p>
			27	ホームページ・各種学校通信など学校からの情報発信は効果的に行われた。	企画広報									

テーマ	領域	重点目標	評価項目 No.	評価項目	主たる担当部署	領域の達成状況	重点目標の達成状況	評価項目の達成状況	教員評価	生徒評価	保護者評価	来年度の改善の方策 (令和6年3月記入)	課題と来年度に向けての提言
変化 する時代 の実現 のために 夢や志	領域4 教師力の向上		28	生徒に寄り添い、厳しさと温かさをもってカウンセリング力、コーチング力の向上に努めた。	全職員	A- (82.0)		A- (81.7)	3.3	3.2	3.3	【全職員】 生徒の内面を理解し、厳しさや温かさを持って生徒と関わっているが、さらに効果的に行うため、個人だけでなく、組織的に取り組んでいく。 来年は探究の教員向け研修があるので、ますます総合的な探究の時間の学習を充実していく。先生方の参加された外部研修の共有ができれば、教科をこえて研鑽できるようにする。様々なデータ化がされているので、資料データなどを一元管理していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の速やかなる情報発信は素晴らしいと思います。 ・校内研修等で沢山の事を学ぶことができた。困ったことがあると教職員間で相談しやすい雰囲気でも過ごることができた。 ・頻繁に研修を行なっている。
			29	ニーズをつかみ、変化する時代に対応するために総合的な教師力の向上に努めた。	全職員			B+ (79.2)	3.3	3.0	3.2		
			30	報告・連絡・相談を密にとり、「チーム学校」としての教育力の向上に努めた。	全職員			A- (85.0)	3.5	3.3	3.4		